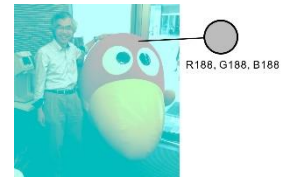


輝度変化による運動錯視（リバーズファイなど）の再検討

北岡明佳（立命館大学総合心理学部）



視覚刺激の一部の輝度が増えることで運動知覚が生じる現象がある。リバーズファイ、ファイ、それらの組み合わせである4ストローク運動が知られている。4ストローク運動は、4コマの静止画の繰り返しであるにもかかわらず、刺激が一定方向に無限に運動するように知覚される錯視デモという感じのものである。本トークでは、4ストローク運動には3種類あることを示した Kitaoka (2010)の研究を紹介するとともに、輝度変化による運動錯視を再検討する。

Kitaoka, A. (2010). The Fraser illusion family and the corresponding motion illusions. 33rd European Conference on Visual Perception (ECPV 2010), EPFL, Lausanne, Switzerland

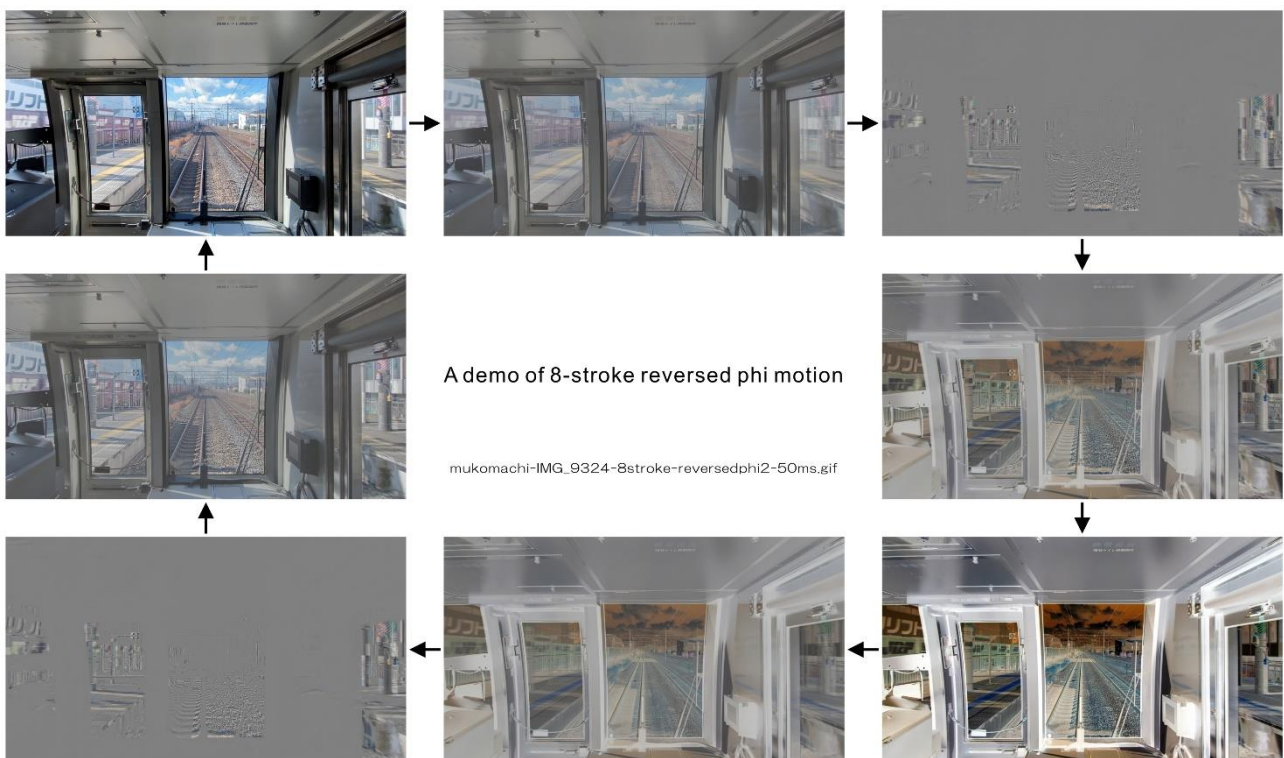


図 Mixed type の4ストローク運動のデモ¹。この動画では、刺激がなめらかに動いて見えるよう4コマ追加（上列中央、右列中央、下列中央、左列中央）して8コマとしてあるが、追加コマはなくてもよい²。

¹ http://www.psy.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/mukomachi-IMG_9324-8stroke-reversedphi2-50ms.gif

² http://www.psy.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/mukomachi-IMG_9324-4stroke-reversedphi2.gif